TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース
eyes90

巻頭「ダヤニータ・シン
インドの大きな家の美術館」展
Dayanita Singh, Museum Bhavan

「対話による作品鑑賞」とは？

eyes TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
NEWS MAGAZINE / 2017 Vol.90

Dayanita Singh,
Museum Bhavan

総合開館20周年記念

「ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館」展

Dayanita Singh, Museum Bhavan
インタヴュー

〈マイセルフ・モナ・アハメド(Myself Mona Ahmed)〉より 1989-2001年 ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵

世界の現代アート・シーンでもっとも注目を集めるインド人女性作家のダヤニータ・シン。彼女が撮る写真は洗練され詩的であり、一枚一枚がとても美しい。しかし、ダヤニータ作品の本当の魅力は、そうした優れた写真が、独特のコンセプトの中でさらなる輝きを放つところにあるという。公立美術館では国内初となる個展を企画した笠原美智子学芸員に、さまざまな顔を持つダヤニータの作品世界について、話をきいた。

— 本展の表題作〈インドの大きな家の美術館〉のシリーズは、どれくらいのサイズのものなのですか?

「例えば同シリーズの一つ、〈ミュージアム・オブ・チャンス〉(2013年)は、2つの構造物からなっていて、それぞれが高さ2メートル50センチほどありますから、作品の前に立つとかなり大きく感じます。いわば移動式美術館の体裁をとっていて、中には合計163点の写真が収蔵されているんです」

— どのような写真が収められているんでしょうか?

「"美術館"ではグリッド上に配置された写真が、縦、横、斜めと相互に影響しあいながらシークエンスをなしているわけですが、その内容を説明することは不可能なんです。なぜなら、言葉で語るということを否定している作品だから。解釈はすべて鑑賞者にゆだねられています。さらに、展示中いつでも作家が写真を入れ替えて良いというルールが、作品の設定に含まれているんです」。

"真っ当"な作家と感じた理由(わけ)

— ダヤニータ作品に出会ったときの印象は、どのようなものだったのでしょうか?

「彼女は近年めざましい活躍ぶりですから、作品は何度も見たことがありました。しかし、数年前にまとめて作品を観る機会があり、そこでこの作家に対する認識をあらたにしたんです。ちょっと変な言い方かもしれませんが、とても真っ当な人だと思ったんですね」

— 真っ当と感じた理由は何だったのでしょう?

「彼女はもともとフォト・ジャーナリズムの分野で成功した写真家でした。80年代のインドは今よりもずっと女性の社会進出が難しい状況でしたが、彼女は国際写真センター(ニューヨーク)に留学をはたし、インドに戻ってから欧米メディアのために仕事をはじめます。しかし、セックスワーカーや児童労働といった社会問題を追いながらも、西洋のインドに対するステレオタイプ的な見方や、それを助長するような仕事に嫌気がさして、8年ほどでやめてしまうんです」

— "真っ当"というのは、おかしいと思ったことをごまかさずに、なすべきことを決断してきた作家である、という意味なんですね。ジャーナリスト時代には、なにか転機はあったのですか?

「ユーナック(去勢された男性)であるモナ・アハメドを13年間にわたって撮り続けた一連の作品(2001年に写真集『マイセルフ・モナ・アハメド』を刊行)や、ヒンズー教僧院で修行しながら暮らす少女たちを写した〈私としての私〉(1999年)は、一般的なイメージから離れ、個の存在に迫ったという意味で、重要な経験となったのではないでしょうか」

〈私としての私(I am as I am)〉より 1999年 ゼラチン・シルバー・プリント
京都国立近代美術館蔵

左)〈ミュージアム・オブ・チャンス(Museum of Chance)〉展示風景 2013年 2つのチーク材構造物、アーカイバル・ピグメント・プリント
右)〈ミュージアム・オブ・チャンス(Museum of Chance)〉より 2013年 アーカイバル・ピグメント・プリント 作家蔵

〈セント・ア・レター（Sent A Letter）〉2007年
手製ボックスに入った7冊の本

直面する問題に
作品のコンセプトで応える

— そこからどのような理由で、現在のコンセプチュアルな作品へと移行していったのですか？

「ダヤニータは写真家として、また現代アート作家として、さまざまな問題に直面してきました。その一つ一つに対する彼女なりの回答が、作品のコンセプトになっているとも言えます。

例えば、作家なら誰もが抱くであろう不満の一つに美術界のシステムがあります。自分は生きている作家なのに、どうして展示作品をキュレーターが全部決めてしまうのか？と。ならば展示作品を作家自身が入れ替える作品にしてしまおうと、美術館シリーズのコンセプトができあがっていくわけですね」

— 写真集をそのまま展示する作品もありますね？

「『セント・ア・レター』（2007年）は、小さな7冊の本からなるアーティストブックです。友人や家族のために自分の写真を切り貼りして作った、手づくりの写真集がもとになっているんです。ページは蛇腹式になっていて、美術館ではそれを開いたかたちで展示します。一般向けに出版されたものですから、決して法外な値段ではない。近年ますます高騰するアートマーケットに対する、彼女なりの回答だったといえるでしょう」

写真の“トーン”をあわせる

— コンセプトの説明はあっても、作品内容について言葉で語ることをよしとしないのはなぜでしょう？

「説明的な作品に対する懐疑があると思うんです。写真はわかりやすいイメージのようでありながら、実は見る人によってまったく違う解釈が成り立つ難しいメディアです。ダヤニータはそんな複雑な写真の読まれ方を理解した上で、大きさや形式といったいろいろな要素を組み合わせながら、シークエンスをつくり、言葉にはできない物語を編んでいく。

過去に開催されたダヤニータの個展に「ゴー・アウェー・クローサー」というタイトルのものがありました。“むこうへ行って。でも、近づいて”といった意味ですが、こういう矛盾した感情や状況は、いくらでもありますよね。そういった事柄を表わすイメージを、自身が撮影してきた膨大な写真アーカイブから選んでいくわけですが、それは彼女の言葉によれば、写真どうしの“トーン”をあわせる作業です。いわば音のチューニングのような行為ですが、そこで重視しているのが“チャンス”、つまり偶然です。同じ写真でも、ちょっとしたシークエンスの変化でまったく違うものに見えてきます。現実を撮った写真を使いながら、作品は非常にフィクショナルなものになる。そのように、解釈の可能性が変幻自在に広がっていくところが、非常に面白いと思うんです」

— 作品の変遷にもドラマを感じますね。

「直面した問題に対して不平不満を言うのではなく、それ自体を作品にしてしまう。彼女のやり方はいつも具体的で、それが作品の魅力ともなっているんです」

（インタビュー　富田 秋子）

〈ミュージアム・オブ・シェディング（Museum of Shedding）〉より 2016年
アーカイバル・ピグメント・プリント 作家蔵

ダヤニータ・シン　Dayanita Singh

1961年、ニューデリー生まれ。1980年から86年までアーメダバードの国立デザイン大学に学び、1987年から88年までニューヨークの国際写真センター（ICP）でドキュメンタリー写真を学ぶ。その後8年間にわたり、ボンベイのセックスワーカーや児童労働、貧困などインドの社会問題を追いかけ、欧米の雑誌に掲載された。『ロンドン・タイムズ』で13年にわたりオールド・デリーの墓地に暮らすユーナックのモナ・アハメドを撮り続け、『マイセルフ・モナ・アハメド』（2001年）として出版。1990年代後半にフォトジャーナリストの仕事を完全に辞め、インドの富裕層やミドル・クラスへとテーマを転じた。ヴェネチア・ビエンナーレ（2011年、2013年）やシドニー・ビエンナーレ（2016年）などの数々の国際展に招聘される。日本では資生堂ギャラリー（2011年）で個展、京都国立近代美術館と東京国立近代美術館の「映画をめぐる美術－マルセル・ブロータースから始まる」展（2013年～14年）に出品。

ノニー・シン〈リトル・レディース・ミュージアム－1961年から現在まで（Little Ladies Museum –1961 to Present）〉より 2016年 アーカイバル・ピグメント・プリント 作家蔵 上はモナ・アハメド、下はダヤニータ・シン

総合開館20周年記念

「ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館」展

Dayanita Singh, Museum Bhavan

2F 2017.5.20｜土｜– 7.17｜月・祝｜

当館では、いま世界で最も活躍の著しい写真家のひとり、ダヤニータ・シンの公立美術館では国内初の大規模個展を開催いたします。ダヤニータは視覚的な小説とも呼べるような、ドキュメンタリーとフィクション、夢と現実、不在と実在が綯い交ぜになったユニークな世界を展開しています。近年は移動式の「美術館」を考案し、全体を〈インドの大きな家の美術館〉と名付けました。詩的で美しい世界のなかに、現代写真・美術が抱える美術館システムやマーケット等の問題、現代社会におけるセクシュアリティや、格差等の問題が示唆されています。本展は、初期の代表作〈マイセルフ・モナ・アハメド〉（1989-2001年）、〈第3の性〉（1991-93年）、〈私としての私〉（1999年）から、転機となった〈セント・ア・レター〉（2007年）を導入部に、最新作を含むダヤニータ・シンの「美術館」を日本初公開します。

関連イベント　講演会 ダヤニータ・シン

作家が自らの作品について語ります。
[日時] 2017.5.20（土）18:00-19:30
[会場] 東京都写真美術館 1階ホール
[定員] 190名（整理番号順入場／自由席）
[入場料] 無料／要入場整理券
※当日10時より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

関連イベント　講演会 畠山直哉

同時代を疾風する写真家・畠山直哉が朋友ダヤニータ・シンの作品について語ります。
[日時] 2017.7.7（金）18:00-19:30
[会場] 東京都写真美術館 1階ホール
[定員] 190名（整理番号順入場／自由席）
[入場料] 無料／要入場整理券
※当日10時より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社　[協賛] 東京都写真美術館支援会員／凸版印刷株式会社／資生堂　[協力] ANA
[観覧料] 一般 800（640）円／学生 700（560）円／中高生・65歳以上 600（480）円 ※（ ）は20名以上の団体料金

表紙 〈ミュージアム・オブ・チャンス（Museum of Chance）〉より 2013年 アーカイバル・ピグメント・プリント 作家蔵

総合開館20周年記念

山崎博　計画と偶然

YAMAZAKI HIROSHI / CONCEPTS AND INCIDENTS:
A RETROSPECTIVE FROM THE LATE SIXTIES ONWARDS

2F 2017.3.7｜火｜– 5.10｜水｜

写真・映像を「時間と光」というエッセンスによって捉え、1960年代末より活躍してきた山崎博（1946 –）の仕事をたどる、公立美術館で初の大規模個展を開催します。長時間露光によって太陽の光跡を視覚化した〈HELIOGRAPHY〉をはじめ、〈水平線採集〉や〈櫻〉のシリーズなど代表的な写真作品と、作家が写真と平行して追求してきた映像作品、さらに新作を含む約200点によって、作家の歩みを今日的な視点から通覧します。70年代の初め、山崎は「いい被写体を探して撮る」ことへの疑いから、「被写体を選ばずに撮る」ことを模索し、自宅の窓のような制約のある風景、特徴のない単純な海景といった「与えられた枠組み」の中で方法的な探求を行うスタイルに行き着きました。計画性にもとづく制作と、写真行為の中で起こる偶然性がその作品の大きな特質になっています。山崎は「計画がなければ偶然もない」と言います。「計画と偶然」の二つの要素が相互に作用することで、その作品は成立しているのです。

〈CRITICAL LANDSCAPE〉より 1985年 作家蔵

〈水平線採集〉より ≪鵠沼海岸≫ 1981年 作家蔵

〈櫻〉より 1989年 東京都写真美術館蔵

関連イベント 対談「山崎 博をめぐって」

[日時] 2017.3.25（土） 14:00–15:30
北野謙（写真家）×石田哲朗（東京都写真美術館学芸員）
2017.4.16（日） 14:00–15:30
金子隆一（写真史家）×石田哲朗（東京都写真美術館学芸員）
[定員] 各回50名　[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ
※当日午前10時より1階総合受付にて整理券を配布します。
※各回とも作家本人の出演予定はございません。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2、第4金曜日14:00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

[主催] 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会　[協賛] ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網
[観覧料] 一般 600（480）円／学生 500（400）円／中高生・65歳以上 400（320）円 ※（ ）は20名以上の団体料金

総合開館20周年記念

夜明けまえ　知られざる日本写真開拓史 総集編

Dawn of Japanese Photography: The Anthology

3F 2017.3.7｜火｜– 5.7｜日｜

当館では、2006年度より隔年で「知られざる日本写真開拓史」展を開催し、日本全国の美術館、博物館、資料館などの公開機関を持つ施設が管理する幕末から明治期の写真・資料を数多く紹介してきました。本展では、これまでに開催した4つの地方編（「関東」「中部・近畿・中国」「四国・九州・沖縄」「北海道・東北」）の総まとめとして、国指定重要文化財をはじめ、当館および日本大学藝術学部の収蔵作品のほか、全国から選りすぐられた貴重なオリジナルの写真作品・資料を一堂に展覧します。現存する貴重な初期写真の魅力を、立体的な展示でお楽しみいただける貴重な機会です。関連イベントやギャラリートークも多数開催します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・3・5金曜日および、5.3（水・祝）、5.4（木・祝）、5.6（土）、5.7（日）は14：00より。展覧会チケット（当日消印）をご持参ください。

English Gallery Talk

On Thursday, April 13 from 4 pm and Friday, April 14 from 6 pm, Japan Times writer Alice Gordenker will guide visitors through the exhibition. Tours are in English and last about an hour. Free with museum admission; no reservations required.

古典技法ワークショップ「鶏卵紙プリントワークショップ」

《Aコース》4.22（土）《Bコース》4.23（日） 各コース13:00-17:00
[講師] エバレット・ブラウン（元epa通信社日本支局長／ブラウンズフィールド代表）
鶏卵紙の制作プロセスを体験するワークショップです。有料、事前申込制、先着順。詳細はホームページをご確認ください。

鈴木真一≪（子供の武将）≫ 明治時代中期 鶏卵紙に手彩色
奥州市立 後藤新平記念館

初期写真 国際シンポジウム「幕末」

[日時] 3.26（日）15:00–18:00
[会場] 東京都写真美術館 1階ホール
[ゲスト] 高橋則英（日本大学藝術学部教授）、クリスチャン・ポラック（明治大学政治経済学部客員教授）、セバスティアン・ドブソン（初期写真研究家）、ルーク・ガートラン（セント・アンドリューズ大学准教授）、范如菀（国立台南大学動画媒体設計研究所助理教授）、フィリップ・ダレス（チューリッヒ大学研究員）
[定員] 190名（整理券番号順入場／自由席）
[入場料] 無料 ※当日10:00より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

関連イベント　写真開拓史講座「初期写真を巡る講演会」

[日時] 4.1（土）「“写真”と“文献”資料から読み解く写真史」
谷昭佳（東京大学資料編纂所史料保存技術室[写真]技術専門職員）
4.8（土）「初期写真を見ることについて」
三井圭司（東京都写真美術館学芸員）
4.15（土）「初期写真をめぐる定着されたものたちの話」
鳥海早喜（日本大学藝術学部専任講師）
[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ
[時間] 各日とも15:00–17:00　[定員] 50名（自由席）
[受講料] 無料 ※各回の当日10:00より1階総合受付にて受講整理券を配布します。

[主催] 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会　[協賛] ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網　[協力] 日本大学藝術学部／一般財団法人日本カメラ財団
[観覧料] 一般 700（560）円／学生 600（480）円／中高生・65歳以上 500（400）円　※（ ）は20名以上の団体料金

3F 総合開館20周年記念

TOPコレクション「平成をスクロールする」

TOP COLLECTION : Scrolling Through Heisei

安村崇《みかん》〈日常らしさ〉より 2002(平成14)年 発色現像方式印画 (春期より)

TOPコレクションは、毎年一つの共通テーマで、三期にわたって東京都写真美術館のコレクションを紹介する展覧会シリーズです。リニューアル・オープン後、最初となるシリーズのテーマは「平成」。私たちの生きている場所、この時代とその表現を収蔵作品によって検証していきます。2007年に好評を博したコレクション展「昭和の写真1945-1989」から10年。すでに昭和の時代は遠くなり、気がつくと平成の時代は四半世紀を超えています。西暦で言えば1990年代からゼロ年代、さらに10年代という時間の広がりの中で、作家たちはどのように時代や社会と関わり、作品を形にしてきたのでしょうか。「平成」というテーマ性で写真・映像作品を見ていくことで、どのような時代の姿、「平成」らしさが見えてくるのでしょうか。あたかもひとつの長い絵巻や画面を流して見るように時代をスクロールすることで、この時代に特有の価値観や意識、思想の変遷が浮き彫りにされてくるはずです。本展は日本の現代作家たちの表現を通して、その背景にある社会性や文化状況をも照らし出していきます。近年の新しい収蔵作品を中心に34,000点を超える当館コレクションから現代作品をセレクションしてご紹介します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

関連イベント 《対話による鑑賞プログラム》

春期では、本紙12ページで紹介している「対話による鑑賞プログラム」を開催する予定です。出品作品に写っているものについて参加者全員で対話しながらじっくりと鑑賞します。開催日程、参加方法などの詳細は、決定次第ホームページでお知らせします。

[主催] 東京都 東京都写真美術館
[観覧料] 一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)円 ※( )は20名以上の団体料金

春 期
「いま、ここにいる」
2017.5.13|土|-7.9|日|

平成とは、「いま、ここにいる」ことの意味が繰り返し問われた時代といえるのではないでしょうか。写真は「いま、ここにいる」ことの記録であり、そこには、作家それぞれの世界との関わり方が表れています。

[出品予定作家] 今井智己、佐内正史、高橋恭司、長島有里枝、花代、松江泰治、安村崇 ほか

佐内正史〈生きている〉より 1995(平成7)年 発色現像方式印画

夏 期
「孤独とコミュニケーション」(仮称)
2017.7.15|土|-9.18|月・祝|

インターネットの普及、個人情報保護、ひきこもりなど、平成は他者とのコミュニケーションのはかり方、ものとの距離の取り方を変容させました。本展は、人と人、人とものとのつながり方の変化がテーマです。

[出品予定作家] 菊池智子、郡山総一郎、ホンマタカシ、屋代敏博 ほか

郡山総一郎〈Apartments in Tokyo〉より 2013-14(平成25-26)年 発色現像方式印画

菊池智子《鏡の前のグイメイ、重慶》〈The Way We Are〉より 2011年(平成23)年 インクジェット・プリント

秋 期
「共時性 シンクロニシティ」(仮称)
2017.9.23|土・祝|-11.26|日|

平成の写真・映像作品は、「現実」のあいまいさや多義性をさまざまな視点から、小さな「現実」や「物語」を描き出してきました。作家たちが捉える個々のリアリティのつながりや響きあいを新たな視点で検証します。

左)川内倫子〈うたたね〉より 2001(平成13)年 発色現像方式印画
右)大森克己〈サルサ・ガムテープ〉より 1998(平成10)年 発色現像方式印画

[出品予定作家] 大森克己、川内倫子、北野謙、蜷川実花、野口里佳、原美樹子、浜田涼 ほか

APA AWARD 2017
第45回公益社団法人日本広告写真家協会公募展

（第八回『全国学校図工・美術写真公募展』併設）

B1F 2017.3.4｜土｜- 3.19｜日｜

[主催] 公益社団法人日本広告写真家協会
[共催] 東京都写真美術館　[後援] 経済産業省／文化庁／東京都
[観覧料] 一般 500(400)円／学生・高・65歳以上 300(240)円
中学生以下無料 ※( )は20名以上の団体料金

実際の広告として世の中に流通した作品を募集する「広告作品部門」と、写真家の新たな表現への挑戦を募集する「写真作品部門」の2部門の受賞作品を展示します。

フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼　地を這い、未来へ駆ける

Eyes of photojournalist, Hiromi Nagakura – crawl and run towards the future

B1F 2017.3.25｜土｜- 5.14｜日｜

左）アフガニスタンの国技「ブズカシ」2013年　右）奉納競馬大会の少年 チベット自治区 2005年　左右ともに©Hiromi Nagakura

世界の紛争地や辺境の地を旅し、出会った人と時間をかけて深くかかわり合いながら、写真を撮り続けてきた長倉洋海。「メディアの流す情報や、経済・効率優先の原理からこぼれ落ちたものの中に、これからの時代を切り開く大きなヒントがある」。その信念のもとに捉えた37年間のドキュメントは、作品一点一点が、見る人の心に静かに語りかけてきます。本展では代表作から近作まで「激動の世界」で捉えた作品約170点を紹介します。

[主催] クレヴィス　[共催] 東京都写真美術館　[後援] 公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会
[協賛] キヤノンマーケティングジャパン株式会社
[観覧料] 一般 800(640)円／学生 700(560)円／中高生・65歳以上 600(480)円 ※( )は20名以上の団体料金
◎お問い合せ》株式会社クレヴィス 03-6427-2806

第42回2017JPS展

2017 The 42nd Exhibition of the JPS

B1F 2017.5.20｜土｜- 6.4｜日｜

[観覧料] 一般 700円／学生・65歳以上 400円／高校生以下無料
◎お問い合せ》公益財団法人日本写真家協会 03-3265-7451

1950年に創立した日本写真家協会では、写真文化の振興普及のため、プロ・アマチュアを対象にフォトコンテストを開催し、今年で42回を迎えました。JPS展の入賞者からは多くのプロ写真家も生まれています。

世界報道写真展2017

World Press Photo 2017

B1F 2017.6.10｜土｜- 8.6｜日｜

〈スポーツの部　単写真3位〉カイ・オリバー（写真左）
2016年のリオデジャネイロ・オリンピックの100メートル走準決勝、ライバルをふりかえって笑顔を見せているジャマイカのウサイン・ボルト

〈世界報道写真大賞〉ブルハン・オズビリジ（写真右上）
トルコの首都・アンカラで開かれた写真展の開会式で、現地の警察官が駐トルコ・ロシア大使を射殺した事件を捉えた

〈人々の部　単写真1位〉マグナス・ウェンマン（写真右下）
イスラム国（IS）の恐怖と食糧難によってやむなく郷里を去ることになった5歳の子ども。「私には夢がない。もう何も怖いものはない。」と、静かに言う

毎年、世界中の約100会場で開催される世界最大規模の写真展「世界報道写真展」は60回目を迎えます。今年は125の国と地域から5,034人のフォトグラファーが参加し、80,408点の応募がありました。大賞などを含め、受賞作品を紹介する「世界報道写真展2017」を6月10日より東京都写真美術館で開催します。
今年は、8つの部門で25カ国から45人が受賞しました。大賞は、トルコのブルハン・オズビリジ氏の作品です。トルコの首都・アンカラで開かれた写真展で、現地の警察官が駐トルコ・ロシア大使を射殺した事件を捉えています。
マグナス・ウェンマンはイスラム国（IS）の恐怖と食糧難によってやむなく郷里を去り、避難民キャンプで過ごさざるを得ないこどもの姿を撮影しています。こどもが夢や希望をなくす姿を静かに伝え、人々の部で単写真1位を受賞しています。このほか、リオデジャネイロ・オリンピックの決定的瞬間を捉えた作品や漁具により生命が脅かされるウミガメの姿など、世界の現状を伝える写真が並びます。紛争、環境問題、スポーツの決定的瞬間から日常的な場面に至るまで、普段目にすることがない、世界の「いま」を見ることができる貴重な機会です。

フォトドキュメンタリー・ワークショップ

国内では数少ないフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムの現場を学べるプログラムです。フォトドキュメンタリーの最前線で活躍する講師を迎え、レクチャー、ポートフォリオ・レビュー、クィック・ヒット・エッセイ制作を行います。開催日時などの詳細は、決まり次第ホームページにて発表します。

[主催] 世界報道写真財団／朝日新聞社　[共催] 東京都写真美術館　[協賛] キヤノンマーケティングジャパン株式会社
[観覧料] 一般 800(640)円／学生 600(480)円／中高生・65歳以上 400(320)円 ※( )は20名以上の団体料金

最新の上映スケジュールはこちら▶

Photo, Ian Buruma /
©Marty Gross Film Productions, Inc.

〈お問い合わせ先〉
T&Kテレフィルム 03-3486-6881
映画公式サイト www.bunraku-movie.com

文楽　冥途の飛脚

鮮烈な美、名人たちの至芸。昭和54年、京都・太秦撮影所の精緻な舞台セットで制作された近松門左衛門の名作「冥途の飛脚」の舞台上演を、約1時間半に凝縮した傑作。太夫・竹本越路太夫（四世）、三味線・鶴澤燕三（五世）、人形・吉田玉男（初代）ほか、昭和を代表する文楽の人間国宝たちが出演した幻の文楽シネマ。

[上映期間] 2017.3.11（土）-3.31（金）　[休映日] 3.13、3.21、3.26、3.27
[上映時間] 各日 10:20-1回上映
※英語字幕版特別上映　3.24（金）18:30- ※マーティ・グロス監督によるアフター・トーク開催予定
[料金] 前売特別鑑賞券2,000円／当日券一般2,300円／学生・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,500円／未就学児入場不可。

〈上映作品〉
『怪盗グルーの月泥棒』（2010年）
『イースターラビットのキャンディ工場』（2011年）
『ロラックスおじさんの秘密の種』（2012年）
『怪盗グルーのミニオン危機一発』（2013年）
『ミニオンズ』（2015年）
『ペット』（2016年）

〈お問い合わせ先〉
株式会社パルコ 映像チーム
03-3477-8911

『ミニオンズ』『ペット』のイルミネーション・エンターテインメントが贈る

『SING／シング』公開記念　イルミネーション映画祭

『ミニオンズ』『ペット』など大ヒット作を世に送り出したイルミネーション・エンターテインメント。ディズニー／ピクサーに並ぶアニメーション製作会社として大きな注目を集めている。本映画祭では、最新作『SING／シング』の公開を記念し、イルミネーション・エンターテインメントの作品を一堂に紹介する。

[上映期間] 2017.3.11（土）-3.31（金）
[休映日] 3.13、3.21、3.26、3.27　[上映時間] 未定
[料金] 当日券 一般・学生・シニア1,300円、中学生以下800円、障がい者手帳をお持ちの方800円、未就学児無料／各種割引はございません

©2016/Day For Productions / ARTE France / INA
©Atelier Robert Doisneau

〈お問い合わせ先〉
ブロードメディア・スタジオ 03-5413-5487
映画公式サイト www.doisneau-movie.com

パリが愛した写真家　ロベール・ドアノー〈永遠の3秒〉

生涯を通して、恋人たちや子どもたち、ユーモアや風刺の効いた街頭の一場面など、“パリの日常”をとらえた数々の名作をのこしたロベール・ドアノー。撮影風景やインタビューなどの当時の貴重な資料映像や、親交のあった著名人による証言により、20世紀を代表する稀代の写真家の人生と創作の秘密に迫る、初のドキュメンタリー。

[上映期間] 2017.4.22（土）-5.25（木）　[休映日] 4.24、5.8、5.15、5.20、5.22
[上映時間] 〈4.22（土）-5.12（金）〉10:20／12:20／14:20／16:20
〈5.13（土）-5.25（木）〉10:20 1回上映
[料金] 前売特別鑑賞券 1,500円／当日券 一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,100円

事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

各種割引	以下の方は当日料金が割引になります（イルミネーション映画祭は除く）。 写真美術館パスポート会員証提示、当館での展覧会・映画の半券提示、三越カード・伊勢丹カード・アトレビューSuicaカード提示、（公財）東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間パスポート提示※上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。

対話による作品鑑賞

当館では、「鑑賞」と「制作」の両面から、写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するきっかけとなるような教育普及プログラムを行っています。「TOPコレクション 東京・TOKYO」展（平成28年11月22日-平成29年1月29日開催）では「対話による作品鑑賞プログラム」を開催し、都内を中心に全国から18校、計564人の小・中・高等学校の児童・生徒が参加しました。

1 対話のウォーミングアップとして「色と形と言葉のゲーム」を行います

グループに分かれ、1枚の言葉のカードにぴったりの形を一人ひとつ選び、ファシリテーターの質問に答えながら、順番に理由を説明します。次に、1枚の形を見て、それにぴったりの言葉のカードを一人ひとつ選び、順番にその理由を説明します。このゲームが見たものと言葉とをつなぎ合わせる練習となります。人数、学年、授業時間等によって内容はアレンジされます。

色と形と言葉のゲーム
（当館オリジナル教材）

平成28年12月13日に参加した江戸川区立第三松江小学校の様子

対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力など、さまざまな力をはぐくむきっかけになります。
5月からはじまる「TOPコレクション」展（本紙7〜8ページ掲載）では、対話による作品鑑賞のプログラムを開催予定です。詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

「対話による作品鑑賞」とは？

参加者全員で対話を行いながら、作品をじっくりと鑑賞します。参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを素直に話し合い、お互いの発言を共有しつつ鑑賞をすすめると、1人では気づかなかった作品の魅力や多様な見方に気づきます。

2 展示室で作品鑑賞をします

まず、1分ほど静かにじっくりと作品を観察し、そのあとで、見つけたもの、思ったことを話してもらいます。1作品の鑑賞にかける時間は10分〜15分です。展示室では1点だけでなく、同じ作家のシリーズ作など複数点を比較しながら鑑賞することもできます。学校で参加の場合は、事前に先生と一緒にクラスに合ったプログラムを話し合います。

「何か気づいたことは？」「どうしてそう思いますか？」正解・不正解ではなく、どんどん考えをめぐらせます。

教育普及プログラムの紹介はこちら▶

2F SHOP
ミュージアム・ショップ

NADiff BAITEN

詳細ページはこちら▼

TOP MUSEUM収蔵作品ポストカード14種が新登場！ さまざまなジャンルからスタッフがセレクトした、文庫・新書フェアも好評展開中です。

ポストカード 162円（税込）

営業時間／10:00-18:00（木・金は20:00まで）
TEL／03-6447-7684
定休日／毎週月曜日（そのほか美術館の休館日に準じます）

1F CAFE
カフェ

MAISON ICHI

BOULANGER-PATISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

詳細ページはこちら▼

LUNCH MENU（11:30-15:00）

ズワイ蟹とブロッコリーのキッシュ	1,080円
スペルト小麦田舎パンのクロックマダム	1,080円
自家製チキンのシーザーサラダ	1,080円
自家製ローストビーフ＆デリプレート	1,296円
Lambのラザニア MAISON・ICHI風	1,296円
ミニキッシュ＆野菜たっぷりミネストローネ	1,296円

※自家製パンがつきます　（価格はすべて税込）

メニューは予告なく変更される場合があります。

営業時間／10:00-20:00　TEL／03-6277-3862
定休日／毎週月曜日（そのほか美術館の休館日に準じます）

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》
キヤノン（株）
（株）資生堂
全日本空輸（株）
（株）ニコン

《特別支援会員》
キヤノンマーケティングジャパン（株）
大日本印刷（株）
凸版印刷（株）
富士フイルム（株）
（株）リコー

《支援会員》
（株）I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険（株）
アオイネオン（株）
（株）AOI Pro.
（株）アサツー ディ・ケイ
旭化成（株）
朝日新聞社
（株）朝日新聞出版
朝日生命保険（相）
アサヒグループホールディングス（株）
アスクル（株）
（有）アスペン/POLARIS
（株）アートよみうり
（株）アマナ
（株）岩波書店
ウェスティンホテル東京
（株）潮出版社
内田写真（株）
（株）栄光社
（株）エスジー
（株）ADKアーツ
（株）NHKアート
NHK営業サービス（株）
（株）NHKエデュケーショナル
（株）NHKエンタープライズ
（株）NHKグローバルメディアサービス
（株）NHK出版
（株）NHKビジネスクリエイト
（株）NHKメディアテクノロジー
NTT都市開発（株）
エプソン販売（株）
エルメス財団
オリックス（株）
オリンパス（株）
（株）オンワードホールディングス
花王（株）
カシオ計算機（株）
鹿島建設（株）
（株）KADOKAWA
カトーレック（株）
神奈川新聞社
（株）キクチ科学研究所
（株）キタムラ
キッコーマン（株）
（株）紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷（株）
（一社）共同通信社
協和発酵キリン（株）
（株）久米設計
興亜硝子（株）
（株）弘亜社
（株）廣済堂
（株）講談社
（株）光文社
（株）国書刊行会
（株）コスモスインターナショナル
（株）コーセー
コダック（同）
コダックアラリスジャパン（株）
（株）コバヤシ
小山登美夫ギャラリー（株）
（株）ザ・アール
サッポロ不動産開発（株）
サッポロホールディングス（株）
三機工業（株）
産経新聞社
サントリーホールディングス（株）
（株）サンライズ
（株）ジェイアール東日本企画
JSR（株）
JXホールディングス（株）
ジェイティービー印刷（株）
（株）シグマ
（株）実業之日本社
信濃毎日新聞社
（株）写真弘社
写真の学校／東京写真学園
シャネル（株）
（株）集英社
（株）主婦と生活社
（株）主婦の友社
（株）小学館
城西国際大学メディア学部
松竹（株）
信越化学工業（株）
（株）新潮社
（株）スタジオアリス
（株）スタジオエムジー
（株）スタジオジブリ
スターツ出版（株）
住友化学（株）
住友生命保険（相）
（株）スリーボンド
（株）生活の友社
セイコーホールディングス（株）
（株）青春出版社
成美製版（株）
積水ハウス（株）
ソニー（株）
損害保険ジャパン日本興亜（株）
第一生命保険（株）
第一法規（株）
（株）ダイケンビルサービス
大成建設（株）
（株）大丸松坂屋百貨店
大和証券（株）
（有）タカ・イシイギャラリー
高砂熱学工業（株）
（株）髙島屋
（株）宝島社
（株）竹中工務店
玉川大学芸術学部
（株）タムロン
（株）丹青社
千葉商科大学政策情報学部
（株）中央公論新社
中外製薬（株）
帝人（株）
（株）TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム（株）
（株）テレビ朝日
（株）テレビ東京
電源開発（株）
（株）電通
東亜建設工業（株）
東映（株）
東急建設（株）
東京海上日動火災保険（株）
東京急行電鉄（株）
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
（株）東京スタデオ
東京造形大学
東京綜合写真専門学校
東京テアトル（株）
東京都競馬（株）
（株）東京ドーム
（株）東京ニュース通信社
（株）東京美術倶楽部
（学）専門学校 東京ビジュアルアーツ
東京メトロポリタンテレビジョン（株）
（株）東芝
東宝（株）
（株）東北新社
（株）東洋経済新報社
東洋熱工業（株）
（株）トキワ
（株）徳間書店
戸田建設（株）
（株）トータルプランニングオフィス
トヨタ自動車（株）
（株）トロンマネージメント
（株）ニコンイメージングジャパン
日外アソシエーツ（株）
日油（株）
日活（株）
（株）日経BP
日光ケミカルズ（株）
日産自動車（株）
（株）日本カメラ社
日本空港ビルデング（株）
日本経済新聞社
（株）日本廣告社
（公社）日本広告写真家協会
日本コルマー（株）
（株）日本色材工業研究所
日本写真印刷（株）
（公社）日本写真家協会
（公社）日本写真協会
日本写真芸術専門学校
（一社）日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業（株）
日本テレビ放送網（株）
（株）ニッポン放送
日本ロレックス（株）
（株）ニューアートディフュージョン
ノーリツ鋼機（株）
野村證券（株）
（株）博報堂
（株）博報堂DYメディアパートナーズ
（株）博報堂プロダクツ
（株）パス・コミュニケーションズ
（株）ハースト婦人画報社
パナソニック（株）
（株）パラゴン
パリ ミキ
ぴあ（株）
ビービーメディア（株）
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道（株）
光写真印刷（株）
（株）美術出版社
（株）日立物流
（株）ビックカメラ
（株）ビデオプロモーション
ヒノキ新薬（株）
（株）ピラミッドフィルム
（株）ファーストリテイリング
（株）フェドラ
富国生命保険（相）
富士重工業（株）
（株）フジテレビジョン
（株）双葉社
（株）プラザクリエイト
（株）プリンスホテル
（株）フレームマン
（株）文化工房
（株）文藝春秋
（株）ベネッセホールディングス
ベルボン（株）
北海道新聞社
（株）ホテルオークラ東京
（株）堀内カラー
本田技研工業（株）
毎日新聞社
（株）マガジンハウス
丸善（株）
マルミ光機（株）
（株）マンダム
（株）みずほ銀行
三井住友海上火災保険（株）
三井倉庫ホールディングス（株）
三井不動産（株）
（株）三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所（株）
三菱製紙（株）
三菱倉庫（株）
三菱電機（株）
三菱UFJ信託銀行（株）
（株）ミルボン
武蔵大学
明治安田生命保険（相）
森ビル（株）
ヤマトロジスティクス（株）
横河電機（株）
（株）吉野工業所
（株）ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン（株）
ライカカメラジャパン（株）
リコーイメージング（株）
リシュモン ジャパン（株）モンブラン
（株）良品計画
（株）ロボット
（株）ワコウ・ワークス・オブ・アート
（株）ワコール
（株）ワッツ オブ トーキョー

（株）＝株式会社、（相）＝相互会社、（有）＝有限会社、（学）＝学校法人、（公社）＝公益社団法人
（同）＝合同会社、（一社）＝一般社団法人

（平成29年2月現在・五十音順）

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ ▶

	3F	2F	B1F	1F
2017 3	総合開館20周年記念 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編 (収) 3.7(火)-5.7(日)	総合開館20周年記念 山崎博　計画と偶然 (収) 3.7(火)-5.10(水)	APA AWARD 2017 3.4(土)-3.19(日) フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼 3.25(土)-5.14(日)	ドキュメンタリー映画 「あるアトリエの100年」 3.4(土)-3.10(金) 文楽　冥途の飛脚 3.11(土)-3.31(金) 『ミニオンズ』『ペット』の イルミネーション・ エンターテインメントが贈る 『SING／シング』公開記念 イルミネーション映画祭 3.11(土)-3.31(金) パリが愛した写真家 ロベール・ドアノー 〈永遠の3秒〉 4.22(土)-5.25(木)
4				
5	総合開館20周年記念 TOPコレクション 平成をスクロールする 春期(仮称) (収) 5.13(土)-7.9(日)	総合開館20周年記念 ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館 5.20(土)-7.17(月・祝)	第42回2017JPS展 5.20(土)-6.4(日) 世界報道写真展2017 6.10(土)-8.6(日)	
6				
7	総合開館20周年記念 TOPコレクション 平成をスクロールする 夏期(仮称) (収) 7.15(土)-9.18(月・祝)	総合開館20周年記念 荒木経惟 センチメンタルな旅、 1971−2017− 7.25(火)-9.24(日)	エクスパンデッド・ シネマ再考(仮称) (収) 8.15(火)-10.15(日)	
8				

(収)「ぐるっとパス 2017」対象の展覧会　「ぐるっとパス 2017」の詳細はこちら ▶

割引料金について

割引対象

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

1.20名以上の団体のお客様　観覧料が2割引
2.各種会員の方　観覧料が2割引
- □アトレビューSuicaカード
- □MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
- □ウエルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
- □当館映画鑑賞券提示者
- □財団他館友の会、年間パスポート会員
- □JR東日本「大人の休日倶楽部」カード

3.親子ふれあいデー(毎月第3土曜日と引き続く日曜日が対象)
観覧料が5割引
- □都民で18歳未満のお子様を連れたご家族が対象です。
  ※詳しくはお問い合わせください。

無料対象

展覧会を無料でご覧いただけます

1.
- □小学生以下
- □障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □東京都内在住・在学の中学生

※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。
当館までお問い合わせください。

2.シルバーデー(毎月第3水曜日)
- □65歳以上の方　※証明できるものの提示が必要です

東京都写真美術館　年間パスポート「TOP MUSEUM PASSPORT 2017」4月1日(土)より発売(予定)

当館の展覧会を無料または割引でご観覧いただけるお得なパスポートです。

販売価格:3,240円(税込) 有効期間:2017年4月1日(土)より2018年3月31日(土)
販売場所:当館1F総合受付　特典等の詳細は、当館ホームページのご利用案内よりご確認ください。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099　topmuseum.jp

開館時間　10:00-18:00(木・金は20:00まで)。入館は閉館の30分前まで。
休 館 日　毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館。ただし、5月1日は開館)、年末年始 ※最新情報はホームページをご確認ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ17」90号　□発行日:2017年3月6日／企画・編集:東京都写真美術館事業企画課　普及係　□印刷・製本:株式会社公栄社　□発行:公益財団法人東京都歴史文化財団

東京都写真美術館©2017 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。